

市長と地域の懇談会【浜郷】

・開催日時 令和2年11月28日（土） 19：00～20：00

・まちづくり協議会区域名 浜郷地区まちづくり協議会

・会場 黒瀬市民館2階 大会議室

・参加者 13人

《質問・意見》

・平成14年に、浜郷小学校卒業記念として勢田川右岸に植樹されたハマボウについて、発案者の当時の校長が退職後、中崎自治会として剪定作業等を行ってきた。しかしながら、中崎の町役員も住民も高齢化が進む中で、これまでどおり継続することは困難になってきている。今後は市にて管理をお願いしたい。

《回答》

・「ハマボウ」の今後の管理・取扱いについては、浜郷小学校の卒業記念として植樹されたものであるという経緯も踏まえ、浜郷小学校を中心に対応を検討していきたい。

《質問・意見》

・近年の台風及び線状降水帯における集中豪雨によって「通町東新田排水機場」の排水能力が不足している。2年前の台風21号における豪雨では国道42号線が冠水している。今後の集中豪雨に対応するため、「通町東新田排水機場」の排水能力アップのための補助ポンプを早急に設置していただきたい。

《回答》

・集水区域の宅地化や近年の大雨による降雨量が大変多いため、地域で冠水が発生していることは承知している。

排水能力アップについては市内で、浸水被害が発生し対策を必要とする地域が多くあり、計画的に対策を進めているところであるが、多額の費用と期間を要するので、話をきいて、適切に対応していきたい。

《質問・意見》

・小木川については平成26年に300mの改修をしてもらっているが、未だ未整備の箇所も多い。

・現在でも年に1～2回氾濫をおこすので、道路をあげてもらいたい。また、小木川の護岸改修をしていただきたい。

2014 年（平成26 年）に、当時の自治会長が市長に要望してある。

《回答》

- ・小木川については、令和 3 年度以降で護岸改修に向けた現場調査及び河川浚渫を行う予定である。
- ・道路については、嵩上げ工事を行うことで大雨や台風時の冠水が解消され、地域における、防災機能の強化を図ることができるが、その工事を行うことにより隣接地には高低差が生じる等の課題が考えられる。このことから、現時点での事業着手は難しいと考えている。

《質問・意見》

- ・船倉排水機場のポンプが古く、手動で起動させなければならず、手間がかかる。住民も高齢化しているため、ボタン式のものに替えてほしい。

《回答》

- ・市全体のポンプ場の状況を見て、できるだけ早く対応できるように努力したい。

《質問・意見》

- ・一色 110 号防潮扉については一色町と伊勢市のとの間で契約を結び、一色 110 号防潮扉は平時開いているが、この扉が非常に重く、地震等の発生時に防潮扉を閉めることができるのかが危ぶまれる。この扉が常時開いていることが問題であるため以下の対策を要望する。

（自治会としては②は時間と多大な費用がかかるため①を推奨）

- ①防潮扉の大きさを半分程度にして電動化（油圧化）する。（普段は閉めておく）
- ②防潮扉を撤去し、スロープ化して車が出入りできるようにする。

平成 28 年 11 月に県と市が現場確認に来て要望書も提出したが、それから全く返答がない。市民の生命財産がかかっており早急に対応をお願いしたい。市も積極的に関与してほしい。

《回答》

- ・漁協や地権者、県などと調整が必要。

《質問・意見》

- ・一色大橋の上下流に不法係留船が多数係留されており、船の所有者に対して早期の船の移動を促すとともに、悪質な船の所有者には行政代執行を伴う強い態度で臨んでほしい。また、船を利用する際のマナーの悪さが目に付く。行政からの指導や看板の設置など所有者に注意喚起を促してほしい。（早朝におけるエンジン音、ごみのポイ捨てなど）
- ・以前から国土交通省に話をしているが市が知らないのはおかしいので情報共有を徹底してほしい。

《回答》

回答なし

《質問・意見》

- ・以下の3か所について道路補修及び側溝整備を要望する。
 - ①一色3号線（一色町1438番地3～1374番地）・・・舗装整備
 - ②無名道（一色町1454番地3～1445番地1・1438番地3）・・・舗装整備
 - ③無名道（一色大橋下）・・・側溝整備
- なお、先日、維持課が現地確認を行っている。

《回答》

・回答無し

《質問・意見》

- ・豪雨等自然災害の避難場所について
- 近年の気象危機における集中豪雨による自然災害が全国各地で起こっている。今や数十年に一度規模の豪雨等がいつ・どこで起こるか判らない。そこで、そのような事態が起こった時、この伊勢市として、対応を教えてください。
- ①伊勢市民全員が避難する所は、確保されているのか。
 - ②避難住民の分散等具体的な計画は無いのか。
 - ③浜郷まちづくり協議会は、毎年防災訓練を行っている。
- 従来、伊勢市においても市内を4つの地域に分けて、防災訓練を行っていたが、今後そのような計画は無いのか。

《回答》

- ・伊勢市では災害時の緊急避難場所として52か所指定している。南海トラフ地震発生時には避難者は8万人超えると予想しておりすべての避難者を避難所に入れるのは困難。避難所への避難だけでなく、自宅2階やご近所への避難など1人1人が避難の在り方、また、高齢者や障がいのある方への対応などを考えながら一歩ずつ改善をしながらつみあげていきたい。
- ・避難住民の分散避難について、一時避難について新型コロナの感染、濃厚接触者を同じ場所は収容できないため、場所を分けたり、宿泊施設等を利用していく。
- ・避難訓練についても上記を踏まえ、いろんな方の話を聞きながら進めていきたい。

《質問・意見》

- ・住民の避難について、大規模災害が発生した場合は、伊勢トピアだけでは収納できない。伊勢学園や宇治山田商業について利用できるようにしてほしい。

《回答》

- ・宇治山田商業の災害時の利用について現状調査し、実際に運用できるよう県に働きかけ

たい。

《質問・意見》

・宇治山田商業からいせトピアに市道について、照明が少ないために学生が夜道で危険である。防犯上照明を設置してほしい。（市の予算にて対応してほしい。）

《回答》

・危機管理課が担当になる。調整する。

《質問・意見》

・一色町の堤防は昭和38年に完成したが、漁港から排水機場までの約2000mについて、堤防道路が傷んでいる。補修してほしい。
（平成28年に要望して県が調査したが、問題なしとのことであったがそれから月日がたっている。）

《回答》

回答なし

《質問・意見》

・一色町は津波が発生した場合、津波タワーに避難し、翌日以降に伊勢トピアに避難するが、その時伊勢トピアには多数避難者がおり、一色町民は入ることができない。したがって宇治山田商業等の避難場所をあらかじめ割り当てして、全員が建物の中に入ることができるようにしてほしい。

《回答》

・回答なし

《質問・意見》

・一色避難タワー横の農道について2ヵ年計画でかさ上げしてもらっているが、農道の街灯を2～3箇所設置してほしい。

《回答》

・回答なし

《質問・意見》

・ふるさと未来づくりにおける「まちづくり協議会」の在り方・姿について
「私たちのまちだから私たちがやりたい事がある」をスローガンに始まったふるさと未来づくり、浜郷地区まちづくり協議会も発足以来8年目の活動を続けている。
浜郷地区の課題として、『防災』があるが浜郷地区5自治会が力を結集し、現在まで活動

を展開し、一定の成果をあげることができた。

しかしながら、選択Ⅰの問題を含め、行政の目指すところと、浜郷まち協との目指すところのギャップが大きく感じられる。

現在市が描いている『まちづくり協議会』の在り方・姿を聞かせていただきたい。

《回答》

・自治をしていく組織としての形は1つではない。時代や、背景によって変わっていく。話し合いを進めていっても合意できないこともあるかもしれないが、あきらめないことが大事。

自主財源については、自治としては、自主財源があることは理想であるとは思いますが、実際には財源等も含めて、その地域で議論された結果により活動を行なっている。

《質問・意見》

・公安委員会の管轄だが、市からも働きかけてほしい。

「止まれ」の道路表示について、公安委員会の予算がないため、停止線のみ引いている。

「止まれ」とセットにして書いてほしい。

《回答》

・公安委員会への要望について検討中。

《質問・意見》

・今後、人口減が続いていくと、自治会組織の存続が危ぶまれる。

地域のコミュニティが弱っている。将来の地域の担い手はどうなるのか。

自治会の支援について行政としての支援策が必要。このままでは過疎化が進むばかり。

行政と地域とがきちんと話をしていく必要がある。

《回答》

・伊勢市の将来人口について町別に出して、準備を行っている。

医療、保健、福祉、おかげバス（交通）など、将来の高齢者社会になった時の行政サービスについての政策は進んでいる。

一方、少子化対策については、成果がでていないものは少ない。

そのような中、まちづくりについて、どのように地域を担っていくかであるが、数を増やすか生産性を増やすになる。数を増やすのは困難であるため、ICTなどを活用して生産性を増やしていく必要がある。

また、10年後の地域の担い手について、どのように育成していくのか議論が市役所内で始まっており、地域のみなさまにも相談していく。